

## 12月24日のウクライナ情報

安齋育郎

### ●セルゲイ・ショイグ国防相の 12 月 21 日の発言(2022 年 12 月 21 日)

ロシアのセルゲイ・ショイグ国防相は 21 日、国防省幹部の拡大会合で登壇した。特殊軍事作戦の状況や西側諸国との関係に言及し、「ロシアは建設的な和平交渉に常にオープンだ」と述べた。

ショイグ国防相の主な発言は以下の通り。

○ロシアは建設的な和平交渉に常にオープン。

○西側諸国がウクライナ紛争を最大限引き延ばしているのはロシアの疲弊が目的。

○ロシア軍はウクライナの民間人を死亡させないため、包括的措置をとっている。

○ミンスク合意についてメルケル前独首相が「ウクライナに時間を与えるための試みだった」と述べたことは、ウクライナの紛争の原因はロシアではなく、欧米支援によるキエフのクーデターであることを示した。

○ウクライナはテロや依頼殺人、民間人への重火器の砲撃など、禁じられた方法に訴えている。

○27 カ国がウクライナの武器供給に投じた額は 970 億ドル。ウクライナの最前線には NATO 将校、砲兵等の専門家がおり、500 個以上の NATO 衛星がウクライナのために働いている。

○この会合にはウラジーミル・プーチン大統領も参加し、過去にロシアは西側諸国に近づこうと試みたが、西側はそれに反してロシアを破壊しようとしたとの認識を示した。



※安齋注:この報告を聞いただけでも、ロシアが如何に膨大な敵を相手にしているかが理解できます。ロシアが思ったように戦局が進まない面があるのは当然なのでしょう。これはウクライナを舞台にしたロシアーNATO 戦争であることは明らかです。

### ●米国は 2014 年からロシアをウクライナとの対立に巻き込むためにあらゆることを行っていた=フランス情報機関の元局長(2022 年 12 月 21 日)

フランス対外治安総局(DGSE)情報局のアレン・ジュイエ元局長は、Mondafrique のインタビューで、米国は 2014 年からウクライナ紛争を挑発し、ロシアを戦闘行為に巻き込むためにあらゆることを行っていたと語った。

#### 米国の圧力下で

米国は全力でロシアをウクライナとの武力紛争に巻き込もうとした。これは、実際に紛争が始まった今年 2 月までに戦闘行為のリスクについて警告したのは米国の情報機関のみだったという事実によって説明される。

ジュイエ氏によると、欧州の情報機関が1年前にウクライナで武力衝突が起こることに疑いを抱いて

いたのは、「定期的に嘘をつく」米国への不信のあらわれでもあった。

同氏は、2014 年及び 2015 年にフランスとドイツは入手した情報に基づき「米国の圧力下」においてウクライナの「親ロシア派」と「親欧米派」の住民たちの間で全面的な紛争が勃発するリスクがあることを理解していたと述べている。各国はエスカレーションを回避するために「ミンスク合意」の締結を主導したが、米国のせいでこの合意は実現に至らなかった。ジュイエ氏は「その後、フランスの情報機関は起こっている事柄を傍から見ることはできなかつた」と嘆いた。

### 「妄想をやめる必要がある」

ジュイエ氏は、前線の状況はどちらの側にとっても有利ではないが、交渉を始めるには有利な状況だと考えている。欧州の人たちは、ロシア人もウクライナ人も「非常に勇敢で、真の戦士」であることを「忘れてる」という。ジュイエ氏は、ロシアは力を消耗しているがウクライナの方はすべてが上手くいっているという妄想を抱くのをやめるべきだと考えている。同氏は、この「苛酷な紛争」に勝者はあり得ないとの見方を示している。

### 「全面戦争は決して起こらない」

なお、ジュイエ氏は、ウクライナ紛争が核兵器の使用を伴う全面戦争にエスカレートする可能性はないと考えている。同氏は「いかなる国もロシアと戦うことを望んでいない」とし、北大西洋条約機構(NATO)のストルテンベルグ事務総長が人騒がせな発言をしているのは、ロシアを相手にしたウクライナの戦いにさらに多くの資金を呼び込もうとしているからにすぎないと説明した。

ドイツ社会民主党の元党首オスカー・ラフォンテーヌ氏は先に、Deutsche Wirtschafts Nachrichten のインタビューで、米国はウクライナでクーデターが発生した 2014 年からウクライナに武器を供与し、ロシアとの対決に備えさせていたと語った。



## ●アメリカがウクライナにパトリオットを提供(2022 年 12 月 22 日)

米政府は米製対空防衛システム「パトリオット」を含む、18 億 5000 万ドル(約 2380 億円)規模のウクライナへの追加軍事支援を決定した。米国のアントニー・ブリンケン国務長官が 21 日、声明を発表し明らかにした。

米国が「パトリオット」をウクライナに供与するのは初めて。ブリンケン国務長官は今回の軍事支援について、「対空防衛や精密攻撃の能力を高めるほか、ウクライナ軍が戦場で使用する重要装備が含まれる」としている。

### パトリオット

対空防衛システム「パトリオット」は敵のミサイル、戦闘機迎撃などに使う地対空ミサイル発射装置。「守り」に主眼を置いた装備で、米国としては長射程の攻撃兵器と比べれば供与のハードルが低い。日本の航空自衛隊も対北朝鮮のミサイル防衛を念頭に配備している。

タイプによって射程は異なるが、30～100 キロ超の範囲をカバーできるとされる。一方、「パトリオット」は米軍の機密性の高いシステムと連動しており、運用には地上での複雑な操作が必要になるとする分析もあり、一定の「供給しにくさ」も指摘されていた。



## ●2008年にウクライナをロシア封じ込めの足場にするための種が蒔かれていた＝露ラブロフ外相(2022年12月7日)

西側諸国は 2008 年に開催された北大西洋条約機構(NATO)ブカレスト首脳会議で、ウクライナをロシア封じ込めの足場にする種を実質的に蒔いた。ロシアのラブロフ外相が、ロシア世界経済国際関係研究所(IMEMO)主催の国際フォーラム「プリマコフ・リーディングズ」での演説でこのような考えを示した。 ※安齋注:この考えはシカゴ大学のジョン・ミアシャイマー教授や安齋育郎の考えと同じです。

ラブロフ氏は、2004年に実施されたウクライナ大統領選の結果が改ざんされているとして抗議運動(オレンジ革命)が起きたと述べた。当時の大統領選では、2回目の投票で「親ロシア派」のヴィクトル・ヤヌコヴィッチ氏が過半数を獲得して当選したものの、同氏はその後に行われた「第3回目」の投票で「親欧米派」のヴィクトル・ユシチェンコ氏に大統領の座を譲らざるを得なかった。

演説でラブロフ氏は聴衆に次のように語った。

「欧米は何をしたのか？ ポーランド、ドイツ、フランスなどの国々の首相や大統領がキーウ(キエフ)に赴き、ウクライナ当局に野党にもう一度チャンスを与えるよう、つまり憲法上ではできないものの、憲法裁判所の判断を仰いで第三回目の投票を行うようにとウクライナ政権に迫ったのだ。そこからすべてが始まった。オレンジ革命はウクライナの憲法を侵害し、2008年のブカレスト首脳会議ではウクライナとグルジア(ジョージア)が NATO の加盟行動計画に参加することになったが、これは何のためだったのか？ ウクライナをロシア封じ込めの足場に変え、ロシアへの軍事的脅威を作り出したのだ。我々は自信を持ってこのことについて語る事ができるのだ」

これよりも前、ラブロフ氏は欧州安全保障に関する記者会見で、西側諸国が発表したすべての声明が政治的宣言の枠組みの一部としてなされたにもかかわらず、これらの国々は平等で不可分の欧州の安全保障システムの構築を阻止する努力を長年続けてきたとの考えを示した。その際に同氏は、「そして今、我々はこの完全に近視眼的な誤った政策の成果を手に入れている」と述べている。



## ●ロシア経済の破滅を狙った西側の目論見は失敗した プーチン大統領(2022年12月15日)

プーチン大統領は、ロシア経済の破滅を狙った西側の目論見は失敗し、ロシア国民は団結と責任感を発揮したと語った。この声明は、15日の戦略発展・国家プロジェクト会議で表された。

プーチン大統領はまた、**ロシアは外からの圧力があろうとも独自の発展を続け、専ら前進すると述べた。**

プーチン大統領は、ロシアは責任ある金融・マクロ経済政策を維持し、さらに、躍進的に発展する諸国、つまりアジア、ラテンアメリカにおいてパートナーを模索し、アジアでの港湾およびパイプラインシステムを発展させ、東方向けのガス供給を2030年までに最高で年間880億立方メートルを目標に増やし、パートナー諸国との関係を新たなレベルまで引き上げ、これに関心を持つすべての相手と相互関係を拡大していくと指摘した。

プーチン大統領は、ロシアはこの5カ月間だけで、アジア、アフリカ諸国を最優先におよそ2200万トンの穀物を輸出したことを明らかにしている。

プーチン大統領はさらに、EU内では、米国の政策が欧州の産業を破壊に導くことが認識されていると明言している。

プーチン大統領はまた、欧州は対露制裁を科したことで高いインフレ率を招いたと語った。



## ●ロシア東部最大のガス田で中国向け天然ガスの生産開始(2022年12月21日)

ロシア東部最大のガス田で、ロシアと中国をつなぐパイプラインに供給される天然ガスの生産が21日、始まった。日本のメディアが報じた。

欧州がロシア産天然ガスの依存を減らす中、**ロシアは中国への供給を拡大し、関係を強化している。**

露ガスプロムは21日、東シベリアのイルクーツク州にあるコビクタ・ガス田の操業開始にあわせて、サンクトペテルブルクで記念の式典を開催した。ガスプロムによると、このガス田の採掘可能な埋蔵量はおよそ1兆8000億立方メートルとロシア東部最大で、2019年に供給を開始した中国向けのパイプライン「シベリアの力」に接続される。

計画では、2026年以降、年間270億立方メートルを生産するという。



## ●ロシアとの交渉に消極的なゼレンスキー大統領 欧州の忍耐力を試す(2022年12月20日)

ロシアとの交渉を拒んでいるウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領は、エネルギー危機と不況に直面している欧州の政治指導者たちの忍耐力を試し始めている。米国メディア「ポリティコ」が伝えている。

以前、ゼレンスキー大統領はフランスのテレビ局「LCI」とのインタビューで、多くの国がロシアと交渉することを望んでいるものの、自分自身は交渉に意味を見いだせていないと語った。

ポリティコは「大西洋を挟んで向こう側」にある米国は、経済力があり、したがって忍耐力も強いと指摘している。米政権は、ウクライナに対してロシアとの交渉のテーブルにつくよう圧力をかけることはせず、引き続き支援することを繰り返し表明しており、欧州諸国に対してもこの路線を踏襲するように呼びかけている。 ※安齋注:これは「忍耐力」のも問題ではなく、アメリカの国家戦略の問題です。

しかし同メディアは、バイデン政権は、ウクライナ問題での結束を維持するために「欧州の指導者に働きかける」必要があると指摘している。欧州は 2022 年末、景気後退の瀬戸際にあるだけでなく、ウクライナから来る移民によって「試される」状況に直面している。

これよりも前、バイデン政権はインフレ削減法(IRA)を可決した。これによって、米国は長年にわたる欧州の同盟国との関係、日本や韓国との関係に楔を打った。



## ●講和条件を巡り米国とウクライナの間で意見の対立か(2022年12月22日)

ジョー・バイデン大統領はウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領との共同記者会見で、ウクライナはロシアとの間で「正当な講和」(just peace)を模索する用意があると表明し、ゼレンスキー大統領に同意するよう視線を送った。この視線を受け、ゼレンスキー大統領はうなずいたものの、記者会見では「正当な講和」の内容を巡り、持論を展開した。

バイデン大統領は共同記者会見で次のように発言した。

「ゼレンスキー大統領、あなたは実現する用意があることを明確に示してくれたね。発言を言い換えさせてください。あなたには講和実現、正当な講和実現の用意がありますね」

その後、バイデン大統領はゼレンスキー大統領の方を振り向き、同意するよう視線を送った。これを受けてゼレンスキー大統領はうなずいてみせた。

続けてバイデン大統領はロシアのウラジーミル・プーチン大統領には「この戦争を終わらせる用意がない」とし、米国は「勇敢なウクライナ国民が自国防衛に必要な資金を手にするよう保証する」と表明した。

一方のゼレンスキー大統領は記者会見で「ロシアとの正当な講和がいかなるものなのか、私は分からない」とし、領土および主権の問題ではいかなる妥協も許さないと表明した。

「正当な講和？ 私は知らない。正当な講和とは何か、私は知らない。これは哲学の問題だ……私と彼の間で、正当な講和は異なる形をしている。大統領である私にとって、正当な講和とは我が国の主権、自由、領土保全の問題でいかなる妥協も許さないとということ、ロシアの暴力がもたらした全ての損失を賠償させるということだ」

そのうえでゼレンスキー大統領は、「私は心の底から共に勝利をつかみたい、いや、つかみたいのではない、私はこれを確信している」と発言した。

日本時間未明にワシントン近くの空軍基地に到着したゼレンスキー大統領は、SNS の自身のページに「ウクライナの安定性と防衛力を強化するための一連の会談を行う。バイデン大統領とは二国間関係について話し合う」と投稿していた。

CNN などによると、これまでに米国家安全保障会議(NSC)のジョン・カービー戦略広報調整官はウクライナ紛争が「新たなフェーズ」に突入したと指摘。首脳会談について「米国が現在、そして今後も続けていくことを議論するだけでなく、最終的にどうやってゼレンスキー大統領のいう『公正な和平』の実現を試みるかについて、両首脳が面と向かって話し合うよい機会となる」と述べ、今後のウクライナへの軍事支援に加えて和平への道筋がテーマになる可能性を示唆していた。

一方でアントニー・ブリンケン国務長官は 21 日、米製対空防衛システム「パトリオット」を含む、18 億 5000 ドル(約 2380 億円)規模のウクライナへの追加軍事支援を決定したと明らかにしている。

<https://twitter.com/i/status/1605684236832448514>



Biden: "Ukraine won the fight for Kiev, won the fight for Kherson, won the fight for Kharkiv — Ukraine has defied Russia's expectations.

President Velensky, Zelensky, you are open for "just peace"

(訳)バイデン: 「ウクライナはキエフの戦いに勝利し、ヘルソンの戦いに勝利し、ハリコフの戦いに勝利した — ウクライナはロシアの期待に逆らった。ヴェレンスキー大統領、ゼレンスキー大統領、あなたは「公正な平和」に対して心を開いていますよね」

※安齋注:相手の大統領の名前を「ヴェレンスキー」と間違え、しかも、「公正な平和」などという意味不明の概念を明確な定義もなしに持ち出して、記者会見で相手に同意を強制するようなバイデン流は、これはうまく行くわけがないですね。

## ●ゼレンスキー大統領が 6 兆円相当の追加支援を米議会に呼び掛け、「国際安全保障の強化に使う」(2022 年 12 月 22 日)

訪米中のウォロディミル・ゼレンスキー・ウクライナ大統領は米国の連邦議会で上院と下院の主導権を握る政党が異なる、いわゆる「ねじれ議会」の状態になることを踏まえ、そうした状況をものともせず

連邦議会が党派を超えてウクライナ支援を継続することを確信していると表明し、450 億ドル(約 5 兆 9500 億円)の追加支援を呼び掛けた。ジョー・バイデン大統領との共同記者会見で表明した。

ゼレンスキー大統領は共同記者会見で、「議会の変化にもかかわらず、両院、両党の支援が継続されることを私は確信している」と宣言した。

また大統領は議会に対し、総額 450 億ドルの追加支援を速やかに承認するよう呼びかけ、これらの資金はいずれも国際安全保障の強化に費やされると約束した。

このタイミングで訪米したことについて、ウクライナ側が戦況をコントロールしていることが後押しになったとし、西側の軍事支援に改めて感謝を示した。

日本時間未明にワシントン近くの空軍基地に到着したゼレンスキー大統領は、SNS の自身のページに「ウクライナの安定性と防衛力を強化するための一連の会談を行う。バイデン大統領とは二国間関係について話し合う」と投稿していた。

CNN などによると、これまでに米国家安全保障会議(NSC)のジョン・カービー戦略広報調整官はウクライナ紛争が「新たなフェーズ」に突入したと指摘。首脳会談について「米国が現在、そして今後も続けていくことを議論するだけでなく、最終的にどうやってゼレンスキー大統領のいう『公正な和平』の実現を試みるかについて、両首脳が面と向かって話し合うよい機会となる」と述べ、今後のウクライナへの軍事支援に加えて和平への道筋がテーマになる可能性を示唆していた。

一方でアントニー・ブリンケン国務長官は 21 日、米製対空防衛システム「パトリオット」を含む、18 億 5000 ドル(約 2380 億円)規模のウクライナへの追加軍事支援を決定したと明らかにしている。



## ●バイデンはゼレンスキーとの記者会見でウクライナとイランを混同した(2022 年 12 月 21 日)

ゼレンスキーとの記者会見中のウクライナの指導者ウォロディミル・ゼレンスキー・イランとの共同記者会見で、米国のジョー・バイデンはウクライナとイランを混同しました。

バイデンはイランの人々を助け続けることを誓いました。

「ウクライナ政府がイランの人々に基本的なサービスを提供し続けることができることを確認してください」とアメリカの指導者は言いました。

留保を修正せずに、彼は「イラン人」に提供するつもりの支援を健康支援、教育、緊急サービスとリスト・アップしました。

加えて、バイデン大統領は、「ウクライナ」という言葉の綴りと発音を間違え、同国の国民を「ウラニア人」と呼びました。

## ●ゼレンスキー、米国訪問の目標達成できず(Tass, 2022年12月22日)

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は、米国訪問の目標を達成できず、**攻撃作戦のためのより近代的な武器を入手できなかった**。この見方は、水曜日にワシントン・ポスト(WP) が発表した、ウクライナの指導者の訪問の結果に関する記事に含まれている。その著者は、ウクライナの軍事的必要性に関する米国大統領ジョー・**バイデンとゼレンスキーの見解の相違**を指摘しています。資料は、「ウクライナ大統領と彼の顧問は、(バイデンが提供したくない)近代兵器を送るようアメリカに要求し続けている」と述べている。



## ●ドネツクへのウクライナ軍の攻撃(2022年12月21日)

ドネツクのプロレタルスキー地区は、夜間、ウクライナの民族主義者によって砲撃された。教会の建物と6棟の住宅が被害を受け、電線やガス管も破損した。民間人1人が負傷し、送電線の損傷により、いくつかの地区で一部停電が発生した。



## ●プーチン氏、ドネツク、ルハンスクの首脳と会談(2022年12月21日)

プーチン大統領はDNRとLNRの両首脳と会談した。

デニス・プシリン氏は防空システムおよび対砲撃戦の強化を呼びかけた。ドネツクで2日から18日にかけて、21人が死亡、94人が負傷したと述べた。

<https://twitter.com/i/status/1605468653322764288>



※安齋注:ウクライナ軍の極右民族主義者がドネツクやルハンスクなどドンバス地方の人々を攻撃するのは「ロシア語話者」だからという理由ですね。以前お知らせしましたが、あるコメンテーターが「ドンバスの奴らは沼にでも入ってロシア語でケロケロ鳴いてればいい」って言っていたのを思い出します。